東海道五十三次 どまん中袋井宿

KONJAKU MAP

盛り上げよう！袋井宿開設四〇〇周年

今昔マップ

東海道五十三次

どまん中ふくろい

袋井宿

（永久保存版）

日本橋 川崎 神奈川 品川 保土ヶ谷 戸塚 藤沢 平塚 大磯 小田原 箱根 三島 沼津 原 吉原 蒲原 由比 興津 江尻 府中 鞠子 岡部 藤枝 島田 金谷 日坂 掛川 袋井 見付 浜松 舞阪 新居 白須賀 二川 吉田 御油 赤坂 藤川 岡崎 池鯉鼻 鳴海 宮 桑名 四日市 石薬師 庄野 亀山 関 坂下 土山 水口 石部 草津 大津 京都

「江戸時代」の袋井宿に想いをはせる…

元和二年（一六一六年）に開設された袋井宿は、本陣三軒、旅籠五十軒をつらね、諸大名の参勤交代を始め、商人、秋葉への参拝客などで賑わう宿場町でした。東西交通の要衝として、様々な人々が行き交い、寺社隆盛に彩られた袋井。遠い昔に想いをはせてみると、散策の楽しみもひときわ深まってきます。

昔

初代歌川広重画「東海道五十三次 出茶屋図」

袋井宿開設お墨付

「袋井町開屋申」に発して宿の開設を命じた文書で、市指定文化財。東海道五十三次の大半は慶長六年に設置されたが、袋井宿はやや遅れて元和二年に開設されたとされる。

木原嗽古戦場

元亀三年十月、武田信玄は木原に陣をはり、浜松城を守る徳川家康の偵察隊と衝突、六年後この地で武田の隠密「笹田源吾」が討ちとられたと記録される。その供養のため「木原大念仏」が始まる。

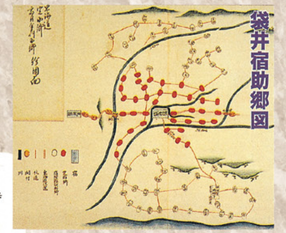
薬師如来立像 宗円寺

市指定文化財の一つ。薬師如来は通常四つ手を組むが、ここでは両手を胸の高さに上げ、高さ約百二十五センチ。鎌倉時代中期の作と言われ、静岡県内では唯一の鉄仏である。

久野城復元図

久野城

市指定史跡。十五世紀の末、久野宗隆により築城された平山城。東海道沿線では珍しく戦国時代の城郭の様子を今に伝えている。正保元年（一六四四年）廃城となった。市指定史跡。



袋井宿助郷図

助郷の村々

江戸幕府が宿駅に常備している人馬の不足を補うために、付近の村々から人馬を供給させた「助郷」。北は現在の袋井市北部から森町、南は浅羽町から大須賀町にかけて計五十三村に及ぶ。

袋井宿の風景

江戸時代末期に作成されたとされる袋井宿絵図によると、東は天竜川まで、東本陣・問屋場・御普請所などが並び、西は中川土橋（御幸橋）まで、街並みは、さらに西まで続いていた。

袋井宿本陣御宿帳

東本陣の宿泊として、元和四年から寛永十年までの十七年間の記録が残されている。袋井宿開設当初の利用状況を知る唯一の貴重な資料となっている。

袋井丸凧

初代歌川広重の「東海道五十三次 袋井」二代目広重の「諸国名所百景袋井」「人物東海道五十三次袋井」などの浮世絵版画には袋井の丸凧の凧揚げ風景がよく描かれている。

許禰神社（熊野権現社）

昔、大雨に悩まされていた村を救うため熊野の神の使いが現れて神社を造るよう促し、「木原権現」（今の許禰神社）が誕生したと。徳川家康がこの宮に参詣し、関ヶ原の戦いの勝利を祈願し、心願成就して七十石の所領を与えたと記される。

新屋秋葉燈籠

江戸時代後期の建立と言われる高さ三メートル少の格子で瓦葺の屋形の燈籠。大正十年頃まで毎年地蔵の人々が交代で可睡斎にお礼を頂き、燈籠内にお燈明を灯したとされる。